花飄散士中村康之郎戲著

滑稽

奇話

不思議光 全

版權所有

東京 翻刻堂發行

特11
678
No 15749

滑稽話

不思議の光

花瓢散士中村康太郎

不思議なる光を放つものゝ此の宇宙間に種々澤山ございますが中にもピカ〳〵ゴロ〳〵ピカ〳〵〳〵と空際に土藏の鍵のやうな光を放つ電光も不思議でございます又此の世界を照らす日光、月光また星光も不思議でございます朽木の夜中光を放ち金剛石の夜間光を放つも魚蝦蟲屬の光を放つも不思議です又老人の禿頭もピカ〳〵光り猫の眼もギロ〳〵と光り阿彌陀の顏、黃金の顏も光り小僧を叱りつける番頭の眼も光り下婢を叱る細君の眼も光ります此等の光るものを數へますれば筆も紙もまた洋燈の光も堪りません此等い皆不思議といゝ云ひながら私共の常に

見慣たものですから別段不思議とゝ思ひませんが拔に書き綴りました不思議の光ゝ此等と異ひまして誠に實に奇々妙々く不可思議千萬の光です此の光の話ゝ私ぞ久しき以前に田舍に居りましたとき或る老人から聞きましたものにて余り面白くて尙私の腦中から消へ去りませんゆへ今チョイト拙き筆を執りて聊か婦女兒童達のお笑草に供へたいとぞんじます。

皆さんもご存知の通り兎角田舍ゝ都會とちがひ山や林や數などの草木の生ひ繁つた所ぞ澤山ありますゆへ其の中に狐や狸などの猾獸ぞの棲んで居て晝ゝ人目を怖れて穴中に隱れ潛んで居りますぞの夜中になつて何所も彼所も暗くなりますると狐共ゝ最と嬉しうに

狐「サーウマイモウ田畝に人も居ないからこれから安心して思ふまゝに美味美食を喰べて遊び戯ける時だ」

と銘々喜びまして朋友を喚び誘ひゾロ〳〵山から出ました

て田畝の方へと走り行きます頃ゝ恰ど夏の時候でありましたから田畝にゝ農夫達ぞの日中の苦熱も厭ひませずに汗水流して作り生育ました西瓜や茄子や南瓜などが頭をならべ夜露を受けて日中の苦熱を凌ぎ最と喜ばしうな有樣に見へてゐります斯る所へ狐共ぞの數多來まして遠慮會釋もなく銘々思ひ〳〵に飽くほど瓜類を喰ひ荒しまして爲もゑろうに飛んだり跳ねたり躍つたりして大層喜んで居りますオマケに歸る時にゝ西瓜などを抱へてエーヤエーヤと聲かけて山へ持ち行きましたろてで翌朝ゐなつ

て農夫達の田畝へ往て見まするとと田畝の作物い大變に喰ひ荒してありますからこれい全く狐の仕業と思ひ腹を立てゝ

農夫「オノレ憎い狐共め今目に物見せてやるぞ」

と言ひながら喰ひ殘してある瓜を捨て引き亂してある蔓や枝を能く整へて歸りますとやがて日暮れ夜ゐ入りますれば又た狐共い今宵も美味お馳走を頂戴ゑませうと各穴を出ましして田畝の作物を喰ひ荒します此樣なことゞの屢々でありましたから農夫達も最早堪忍囊がきれましてなんとかして此の野荒し狐を退治ゑようと思ひろれから種々と退治の仕方を考へてとう〳〵一の奇妙しき方法を考へつきましたろこで先づ晝間ゐ山へ行き狐の棲穴を探し求

めて符號をつけおき而して一頭の龜を池中より捕へ來ゑして龜の甲の上ゐ小さな板を堅く縛りつけ其上ゐ一本の短き蠟燭を立て又一の大なる强き布袋を作りまして日暮前に其龜と布袋を携へ狐の住居する山へ行きます狐と云ふ獸いなか〳〵猾智のあるものですから自分の棲穴にい能く注意て不意ゐ攻擊るゝときの逃るに便利なるやうに入口の他の所へまた逃口を開けてありますろれゆへ農夫達い狐の入口逃口を能く調べて逃口にい石や木などにて堅く閉ぢ塞ぎおきまして携へました龜の甲上の蠟燭に點燈ゑて狐の入口の穴へ向け其龜を逐ひ入れ又布袋の口を廣く開け狐穴の口に張りつけて狐の逃げ出るを待つて居ります逐ひ込まれました龜い俄ゐ狹き恠ゑい所へ來ました

たから何事をされるのかと思ひながら歩み行きてフト自身の甲上わ燈ゞ点りて光るを見つけまして不審に思ひ

「亀「オヤ奇態だ己の体の上に火がついてピカ〳〵光つてある何だかモウ体ゞ熱くなつて來たやうだコリヤぼんやり去てゐてい体も焼けて去もう早く逃げねむあらん」

と驚ひて前後も知らず馳け走つて穴の奥へ進み行きましたが又穴中に居る狐も此様な事とい知りませず最早日も暮れたから今晩も飽食の快楽を去ようと思ひ用意を整へ穴を出ようとすると不思議に穴の口の方にピカ〳〵と光るものがありますから狐い不審く思ふうち光い漸々と穴の奥へ進んで來れゞ驚ひて之を見まするとと黒き塊物わ四足ゞ附て其上に火を點して尖つた頭を突き出して馳け來ま

すから甚だ驚きまして

狐「サテ〳〵奇態な怪物ゞ來るやうだコリヤうか〳〵去て居ていどんな憂目にあふかも知れんチッともはようゞ逃げわヤならん」

とかねて逃げる時の用意わ開けて置きました逃口へ一目散に馳け行きなしてモウ逃穴の出口だと思ひ飛び出ようとしまするとと奇態わ出口い堅く塞つてありまして出ることゞ出來ませんでしたろうこで狐いいよ〳〵驚き怖れて身いぴり〳〵振ひわなつて居りますと亀いろれとも知らず自身の体の上の光ゞなか〳〵消へあいからとうか此の光から逃れたいものだと思ひ脇目も振らず一散に穴の奥へ馳け行きて奥へ突き當るとまた穴ゞ横へ曲つてありま

すから其方へだん〳〵進んで出口に迷ふてゐる狐の方へ向ふて行きまするとと狐ゝ怪物ゞの自分の跡を追ふて進み來ますを見てます〳〵驚き逃げようとしても逃口ゝなく逃げねばァノ怪物に出逢ふて毛ゝ火に燒れ身体ゝ怪物の爲めに嚙み殺されるかと思ひどうして此のあろろしい所から逃れようかと心配して居るうちハヤ怪物ゝ狐の体近く進み來ましたから狐ゝ何の思案をする暇もなく周章狼狽して生命から〳〵怪物の上を飛び越へ穴の入口の方へ馳け走つて逃げ行きます龜も亦唯自身の体上の光ゞの怖さに間近に狐ゞ居たとも氣ゞ附かず只管早く逃れたいと急ぎ行きました所へ何者とも知れず突然体上を飛び越され其のみか今までピカ〳〵光つてあつた火も忽ち消へ失せて眞

暗となりましたゆへ非常に驚きて思ふやう

龜「サテモ今宵ゝ不思議なことばかりあるものだ已ゞ身体ゝ火が附いたのみか極端知れぬ奇態なる穴奥へ入り込みて驚怖思ふうち今また變な者が体上を飛び越ると ゝ何とも合點ゞ行かぬ之れゝ必らず天性の棲穴であらうコリヤ益々〳〵油斷ゝ出來ぬ一体如何ゝたらよからうか」と途方ゝ迷ひ心臆ビク〳〵として躊躇て居りますシテまた一生懸命に怪物の上を飛び越へました狐ゝ無性矢鱈に逃げ急ぎて彼方に行き當り此方に蹉きながらやう〳〵穴を飛び出で〳〵フト柔かなる物に突き當りましたから之れゝ山に生ひ繁る草だと思ひヤァ安心だとホット一息ついて見ますると草と思ひました柔かなるものゝ草でゝござ

いませんで暗黒なる袋の中でありましたゆへ狐ハヒドク驚きて逃げ出ようと狂ひ噪ぎましたが最早口ハ閉ぢられて出ることハ出來ませんでとう〳〵生擒となりました農夫達ハ今此の面白き術計わて生擒にゑました狐を縛りあげ皆々ドット笑ひ喜びましたうこでまた龜を救ひ出ようと思ひ前に塞いて置きました穴を開けて暫くすると龜ハヒョコ〳〵と馳け出でましたから共に已が家に携へ歸り龜ハに食物を與へて其功勞を賞し狐ハ之を調理して狐羹を作り隣の翁や嫗さんを招きて狐羹のご馳走を饗應ました其後農夫達ハ同じ術計にて度々狐獵を致しまして澤山なる狐を生擒にゑましたと云ふ

皆さんハ此の話をお讀みなすつてどんなお感じが起りま

すか暗き所で我儘に惡事を働きました此狐ハフト不思議なる光の來たのを見て驚き怖れ彼所此所へ逃げ廻りてと〳〵捕へられましたことを思へば惡事の報ハとても免れることの出來ないことゞもわかりになりませう然るに私共の住居する此世界にハ狐よりも尚一層甚だしき惡き者ゞ居りまして吾々人類の正しき者をまよわして惡き道に誘ひ入れようと致しますこの惡き者ハ私共が眼で見ようと思ひましても見ることハ出來ません又手で捕へようとゑましても捕へることゞ出來ません此の惡き者ハいつも私共の身体に附纏ひまして私共を暗き冥途に誘れ行かうと致しますゆへ私共ハ一寸でも油斷をゑまするとと直に暗所へ誘れ行かれます實ハ懼るべき者です此の惡き

者い何と云ふ者で之ようか若しごぞんじないお方がわれ
ば新約全書と云ふ書物の馬太傳第四章の一節より十一節
までをお讀みなさらばわかりませう此樣に悪き者ゞ此の
世界に居りますと此の世界いなか〳〵おろろしい所です
併し最初吾々人類をお造りくだすつた慈悲深き造物主い
私共の爲めお此の悪き者を退治之ようとればしめして此の
世界お一つの不思議なる眞理の光を降し給ふて私共を守
り暗きお居る悪き者を照らし其の悪しき働の出來ないや
うにしてくださいました新約全書の約翰傳第八章十二節
お「我い世の光なり我に從ふ者い暗中を行ず生の光を得な
り」と書してゐります左すれば私共ゞ造物主より降し給ふ
た此の不思議なる眞理の光を信じ此の光を受けて我身に

着けて居りますならば如何なる悪き者でも忽ち怖れて逃
げ去ります尚其れ丈でいなく私共ゞ最も忌み嫌ひます死
と云ふ境界から免れ出ましして永遠活る生の光を得られま
すされども若し此の光を得ませんならば私共い最早暗き
ふさまようものですから其暗きを喜びまする悪き者が直
に出て來まして私共お取つき種々の災禍の中お陷し入
れ永遠苦楚を受けさします實に私共が幸福に就くか災禍
に入るかの其間い極めて僅々お之て毛髪一線だに容る〻
ことの出來ないほどですされば皆さんが若しも災禍を避さ
けて幸福の門に入らうとなさる〻ならば何い兎もあれ「我
い世の光なり」と申しました者を早く見出して之を信じ此
の光を我身お受けて悪き者の近寄らないやうにせんけれ

べなりますまい此の「我」と申しました者い私共ゐ大なる幸福を興へ呉れますゆへに私共ご信じて從ひまずるならば親子も夫婦も兄弟姉妹も皆平和でいつも喜んで此世を樂しく暮らすことゞ出來ます此の「我」と申しました者い誰でゑようか若しごゞんじでございませんならば新約全書の約翰傳第八章をご覽なさらば明かにゐわかりになりませうから早く見出して其不思議なる眞理の光をゐ受けなさいませ。

明治二十二年三月二日印刷
同　年三月十日出版

定價金貳錢

著作兼發行者　大阪府平民　中村康太郎　芝區愛宕下町四丁目一番地寄留

印刷者　神奈川縣平民　村岡平吉　横濱太田町五丁目八十七番地

版權登錄

賣捌所

京橋區南金六町	神谷書店
仝三十間堀二丁目	江藤書店
芝區田村町三番地	鈴木書店
神田區錦町一丁目	誠屋書店
麻布區飯倉六丁目	池田書店
函館末廣町	栗田書店

091859-000-1

特67-806

不思議の光

中村康太郎／著

M22

DBO-0380